

脱臭・回収乾燥機

ト ス ペ ッ ト

T R - 2 2 6 F

取扱説明書

TOSCI 東静電気株式会社

まえがき

このたびは脱臭回収乾燥機TR-226Fをお求め下さいまして、誠にありがとうございました。
この脱臭回収乾燥機は、数々の特徴をもち、あなたの期待に十分こたえ、お店の繁栄をもたらすものと確信いたします。

この脱臭回収乾燥機をご使用になる前にぜひこの「取扱説明書」をご一読下さい。

正しく取扱っていただければ、機械は常にスムーズに働き、すぐれた性能をいつまでも発揮し、ご満足いただけるものと確信いたしております。

本機ご使用の際は、日常の点検はもちろんのこと取扱注意事項を十分守って事故の起きない様注意してご使用下さい。

- お読みになった後は本機所定の場所に、大切に保存して下さい。

脱臭・回収乾燥機

トスペット TR-226F

取扱説明書

目次

1. 乾燥機安全上のご注意	2
1-1 △ 危険	3
1-2 △ 警告	4
1-3 △ 注意	5
2. 仕 様	7
2-1 TR-226F 仕様	7
2-2 冷凍機 THA300JA-S仕様	8
3. 据付け工事	9
3-1 工事仕様	9
3-2 機械運搬, 搬入	9
3-3 据付基礎工事	10
3-4 電気工事について	11
3-5 スチーム配管工事について	12
3-6 水分分離器排水配管工事	13
3-7 排気ダクト工事	13
3-8 冷凍機据付について	14
4. 作業開始の前に	15
5. 取扱上の注意	15
6. 運転操作方法	16
6-1 各スイッチの説明	16
6-2 変更スイッチ	18
6-3 工程セット	18
6-4 表示部	19
6-5 トラブルモニター	19
7. 自動運転の操作例	20
7-1 標準コースで乾燥（コース1）	20
7-2 回収1の時間変更	20
7-3 脱臭時間の変更	20
7-4 回収1温度の変更	21
7-5 冷却工程の削除	21
7-6 脱臭工程の削除	21
7-7 温度制御出口温度の変更	22
8. 脱臭回収乾燥とオープン乾燥	23
9. 標準プログラムの設定内容	23
10. 点検・整備	24
10-1 日常点検	24
10-2 1ヶ月毎点検	25

1. 乾燥機安全上のご注意

安全にお使いいただくために－必ずお守りください

- この取扱説明書「安全上のご注意」に書かれている内容は、お客様が購入された製品の仕様には含まれない項目も記載されています。

お買上げいただいた、製品（本機）および取扱説明書には、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本機を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



危険

この表示を無視し、誤った取り扱いをして危険を回避できなかった場合死亡、重傷、焼損を負う可能性が想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



危 険

- ◆ 本機に使用する溶剤は引火性です。その使用方法を誤ると火災や爆発を招く恐れがありますので、下記の内容をお守りください。
 - ◇ 本機の周辺では火気厳禁です。
本機の周辺にはボイラー、ストーブ、電熱器などの火気機器を絶対に置かないで下さい。
又、本機の周辺ではタバコを吸ったり、火気を絶対に取り扱わないようにして下さい。
 - ◇ 衣類に入っているライター、マッチ、金属類などは、点火源となりますので、ドラムに投入する前に必ず取り除いて下さい。
 - ◇ 溶剤は石油系ドライクリーニング専用溶剤をご使用下さい。
 - ・石油系ドライクリーニング専用溶剤以外の引火点の低い溶剤（引火点 40℃以下のもの）で、洗淨した衣類は乾燥しないで下さい。
 - ・合成溶剤で洗淨した衣類は絶対に乾燥しないで下さい。
 - ◇ 前処理剤およびその他の助剤について、今一度その引火点をご確認下さい。
溶剤の引火点（40℃）以下を有するものを使用して洗淨した衣類は乾燥しないで下さい。
 - ◇ 定格以上の負荷量を入れないで下さい。
 - ◇ 静電気の発生を防ぐため、帯電防止剤を配合した溶剤で洗淨した品物を投入して下さい。
静電気の発生しやすい衣類等は、乾燥機内に静電防止紙等を入れて乾燥を行って下さい。
- ◆ 運転中は危険ですので、回転部に手や身体を入れないで下さい。
巻き込み等けがの原因となります。
- ◆ 衣類の出し入れは、必ずドラムが停止してから行って下さい。ドラムが回転中に絶対にドアを開いたり、手を入れたりしないで下さい。
- ◆ 脱液していない衣類は乾燥しないで下さい。
- ◆ 本機の後カバーを外したままで絶対に運転しないで下さい。
「回転」している部分に触れたり巻き込まれたりして、ケガをする原因となります。
- ◆ ポリプロピレン系の衣類は、自然発火することがありますので、乾燥しないで下さい。
- ◆ 乾燥した衣類は、速やかにドラムより取り出して下さい。
取り出した衣類は、熱いまま積んでおかないで下さい、発火の恐れがあります。
- ◆ 運転中は、ドアの開閉はしないで下さい。
- ◆ 何か緊急に機械を止めなければならない時は、機械の電源及び元電源を切って下さい。



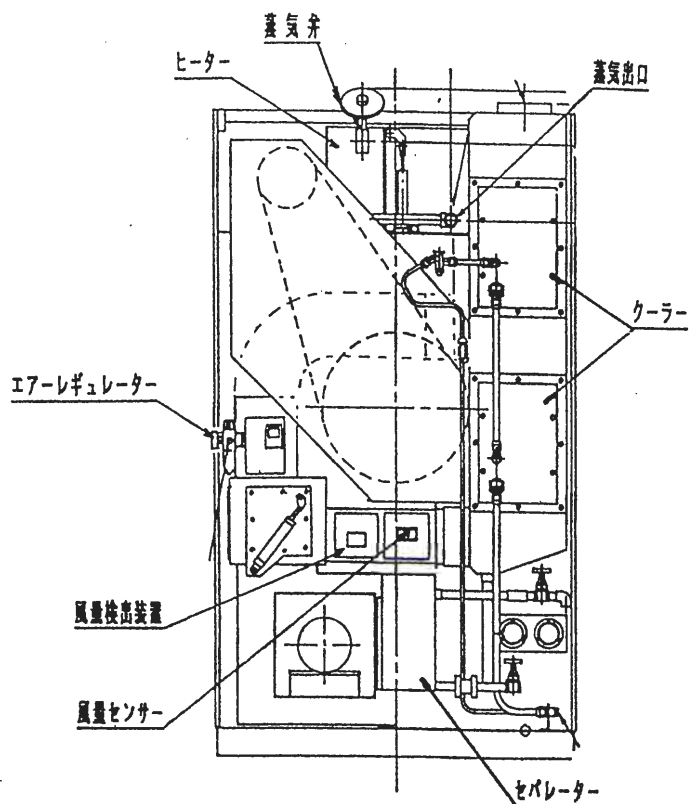
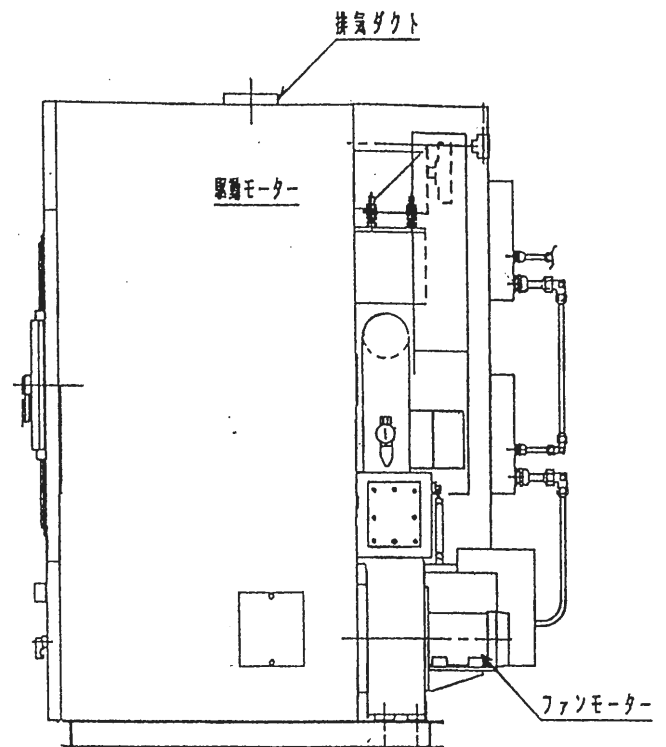
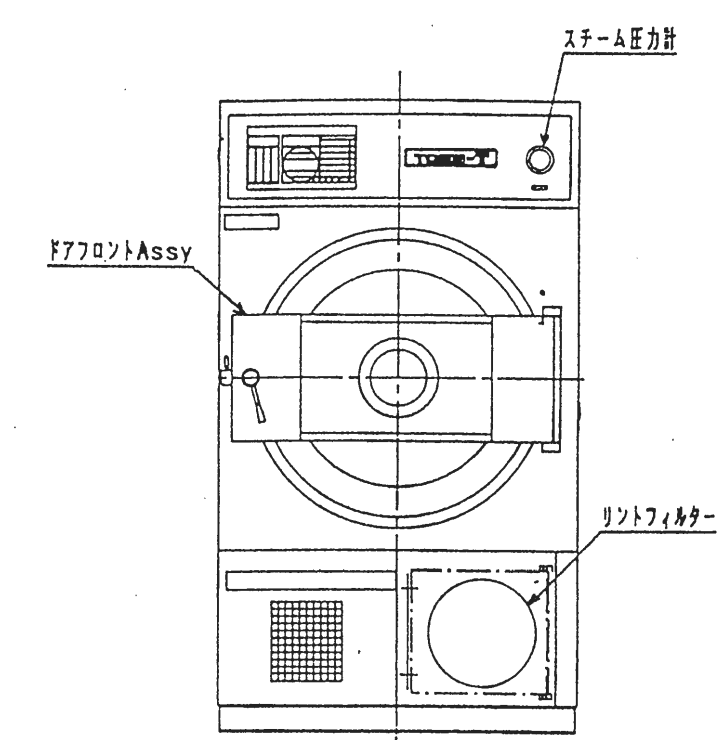
- ◆ 万一、煙が出ている、変なおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。
すぐに電源スイッチを切り、煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですので絶対おやめ下さい。
- ◆ 万一、本機の内部又は電装部等に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- ◆ お客様ご自身で本機を修理・改造はしないで下さい。
火災・感電の原因となりますので、絶対におやめ下さい。修理に関するご相談は、別紙「取扱説明書」をご覧ください。販売店に修理をご依頼ください。
又、警告ラベルの取り外し、破損、改変はしないで下さい。
- ◆ ぐらついた台の上や傾いた場所など、不安定な場所に設置しないで下さい。
機械が振動し故障の原因となります。
- ◆ 本機の上に毛布、シーツ等の品物及び容器類、金属類を置かないで下さい。
火災や故障の原因となります。
- ◆ 本機上部のスイッチボックス蓋を外す時は必ず元電源を切って下さい。
感電の恐れがあります。
内部の点検、調整、修理は販売店にご依頼下さい。
- ◆ 落雷の恐れのあるときは、三相200Vの漏電遮断器の電源を切って下さい。
マイコン、インバータが破損する恐れがあります。
- ◆ 本機熱源（スチームヒーター）部及び配管には、手で直接触れないで下さい。
やけどの恐れがあります。
- ◆ 本機械は衣類を乾燥する機械ですので、それ以外の目的で使用しないで下さい。
- ◆ 部屋の換気を充分に行ってください。
- ◆ トラブル解除の繰り返し運転はしない。
トラブル発生時はトラブルの原因を調べ、処置してから再スタートして下さい。
トラブルの原因を処置しないまま運転すると機械がより危険な状態を招く恐れがあります。



- ◆ 購入後、年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。
本機の内部に、ほこりがたまったらそのまま使用すると、火災や故障の原因となる事があります。掃除は、特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、内部掃除費用については、販売店などにご相談ください。
- ◆ 機械の操作は、「取扱説明書」を十分熟読し、理解した上で運転して下さい。
不慣れな者が運転する場合は、必ず熟練者立会いの上、運転させてください。
- ◆ 内胴出口温度、クーラー出口温度及び内胴入口温度の関係を常に監視し、
所定の冷却水の温度と流量を確保して下さい。
- ◆ 循環及び給排気系統を定期的に掃除して下さい。
- ◆ 水分離器は、少なくとも1ヶ月1回以上掃除して下さい。
- ◆ 機械の接地（第3種接地工事）が完全に行われていることを確認して下さい。

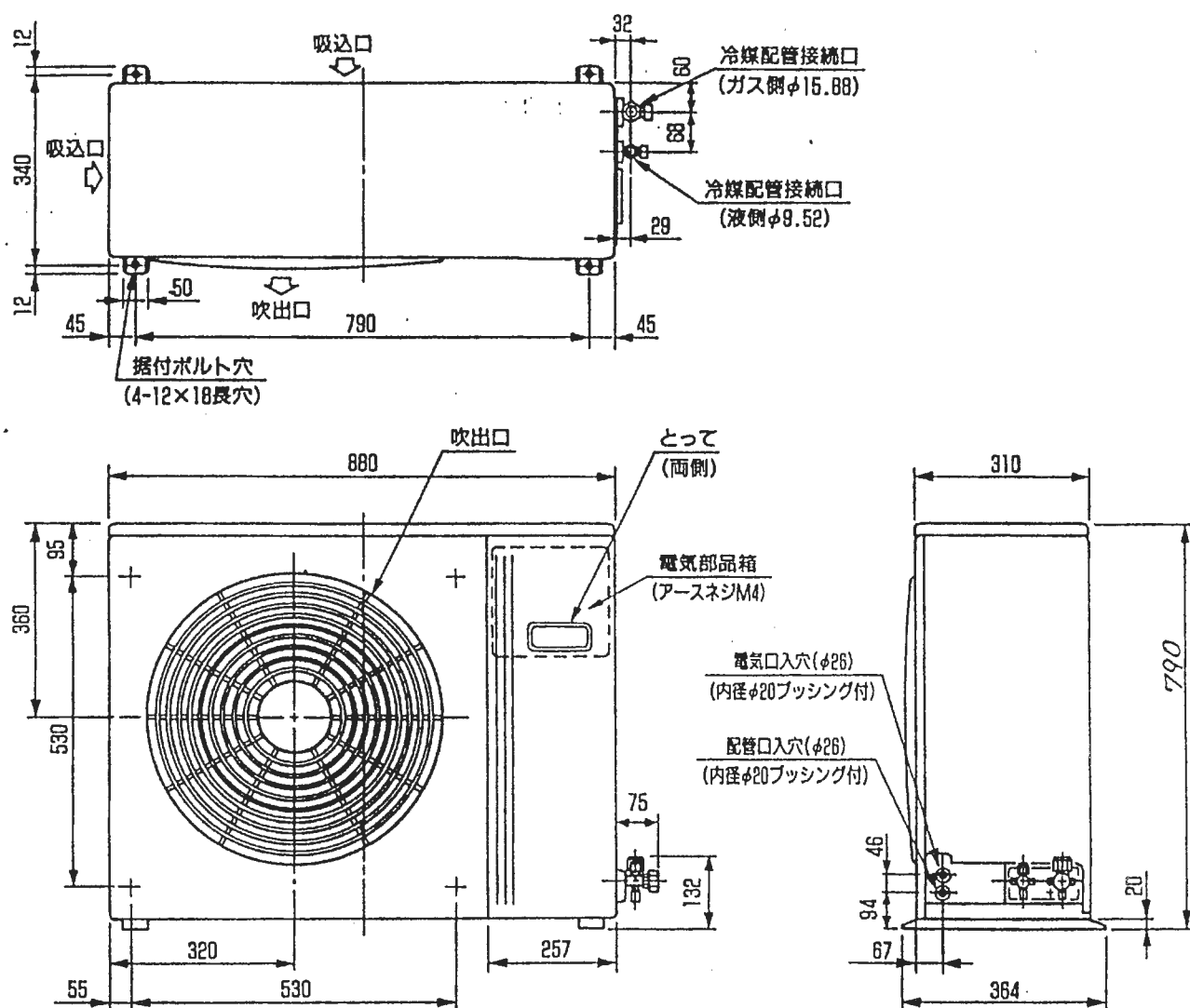
2. 仕様

2-1 TR-226F 仕様



名 称	脱臭回収乾燥機	
負 荷 量	22kg (JIMS 20)	
機 械 寸 法	巾1020 mm×奥行1610 mm ×高さ1800 mm	
ド ラ ム 寸 法	φ900mm×780mm	
駆 動 モ ー タ ー	200V3相 0.4KW	
フ ァ ン モ ー タ ー	200V3相 0.4KW/INV	
冷 凍 機	200V3相 2.2KW	
ド ラ ム 回 転	41rpm	
配 管 口 径	蒸気入口	20A
	蒸気出口	20A
	セパレーター液出口	20A
	セパレーター水出口	15A
排気ダクト口径	150A	
使用蒸気圧力	4~6kg/d	
使用蒸気量	35~40kg/d	
使用エア圧力	5kg/d	

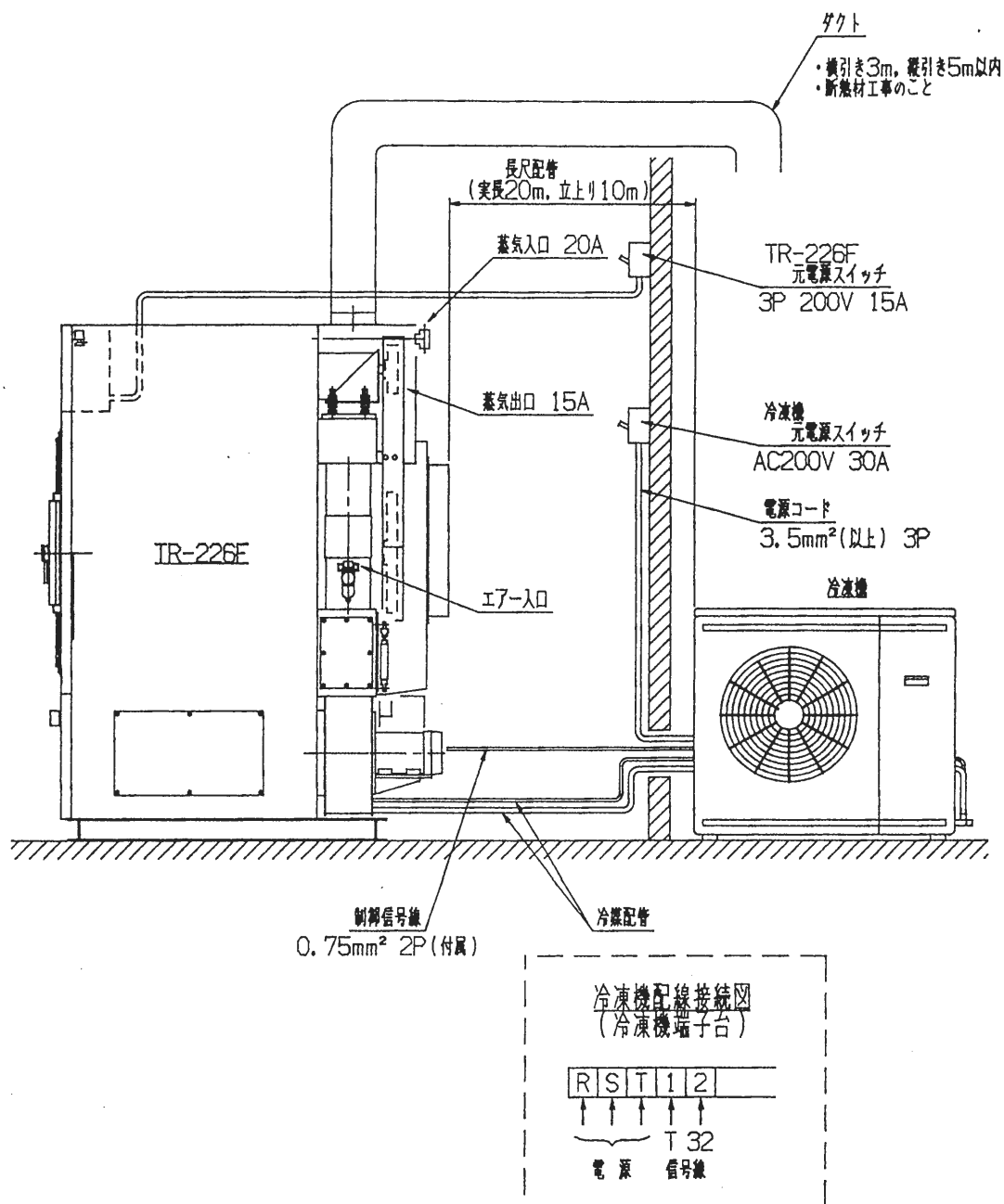
2-2 冷凍機 THA300JA-S仕様



使用冷媒	R-22 (全密閉形高温用)		
冷凍機出力	2.2KW (空冷式)		
電 源	3φ 200V (50/60HZ)		
低圧の範囲 (kg/cmG)	3.3~5.9	低圧スイッチ設定値	
		DIFF(CUT. IN-CUT. OUT)	CUT. OUT (遮断圧力)
		2以上	3以上
高圧の範囲 (kg/cmG)	10~21	高圧スイッチ設定値	
		25.0	

3. 据付工事

3-1 工事仕様



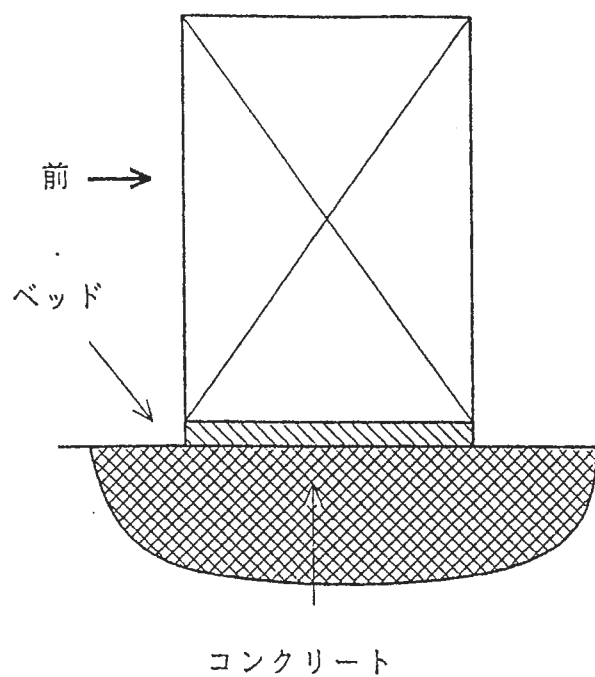
3-2 機械運搬搬入

輸送する際、ロープ掛けて本体が傷まないように、ロープの締め過ぎに十分注意して下さい。

又、積み降ろしの際の吊具として、本体上部に千鳥配置にU方フックがねじ止めされています。

3-3 据付基礎工事

(1) 据付方法

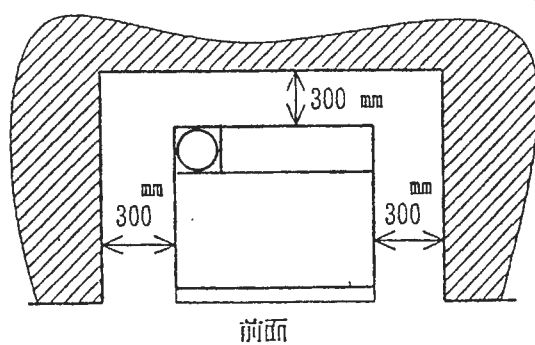


ベッドに対してコンクリートが密着している。

水平レベル

1. 機械の水平レベルを出してアンカーボルト等で固定して下さい。
2. 機械と基礎コンクリートが完全に密着するように工事して下さい。

(2) セッティングスペース



* メンテナンス時に最低必要なスペースです。必ず確保して下さい。

3-4 電気工事について

- ◆ インバータを使用しております為、下記電気工事の注意事項に添った施行をして下さい。
- ◆ 配線工事は、必ず電気工事士の資格を有する者が行う必要がありますので、専門の工事業者に依頼して下さい。

(1) 電気容量

	定格電流	引込みコード
乾燥機本体	15 (A)	より線 2.0 mm ²
冷凍機	30 (A)	より線 3.5 mm ²

- (2) 接地工事アースは、盤内の接地端子を利用して第3種接地工事（接地抵抗 100Ω以下）を施行して下さい。
- (3) 電源の漏電遮断器（ELB）は、インバータ専用（感度電流 30 ～ 100mA）の物を使用して下さい。

（推奨品 … 三菱電気 NV-Sシリーズ、富士電機 … EGシリーズ）

* 普通の漏電遮断器では、高調波漏洩電流により誤操作して使用不可となります。

- (4) 力率改善コンデンサは、絶対取付けないで下さい。

* コンデンサが取付けてあると、インバータが破壊します。

- (5) 電気配線は、出来るだけ金属線管またはフレキシブルコンジェントで保管して下さい。

- (6) 電気配線は、蒸気配管に接近させないで下さい。（15cm以上離すこと。）

(7) アース

- ◆ 万一の感電や落雷時における事故防止及び制御回路の耐ノイズ性を向上させるために、必ず本機専用のアースを設けて下さい。

- ◆ 電源コードは4芯のキャブタイヤケーブルを使用していますが、その内“緑色”の線がアース線ですので、付属のアース棒を用いて本機単独の第3種接地工事をして下さい。

- ◆ 次のようなところは、アース線を接続しないで下さい。

① 水道管 … 配管の途中で塩化ビニール管の場合は、アースされません。

② ガス管 … 爆発や引火の危険があります。

③ 電話線のアースや避雷針

… 落雷の時大きな電流が流れて危険です。

- (8) 乾燥機と冷凍機は、必ず別電源にして下さい。

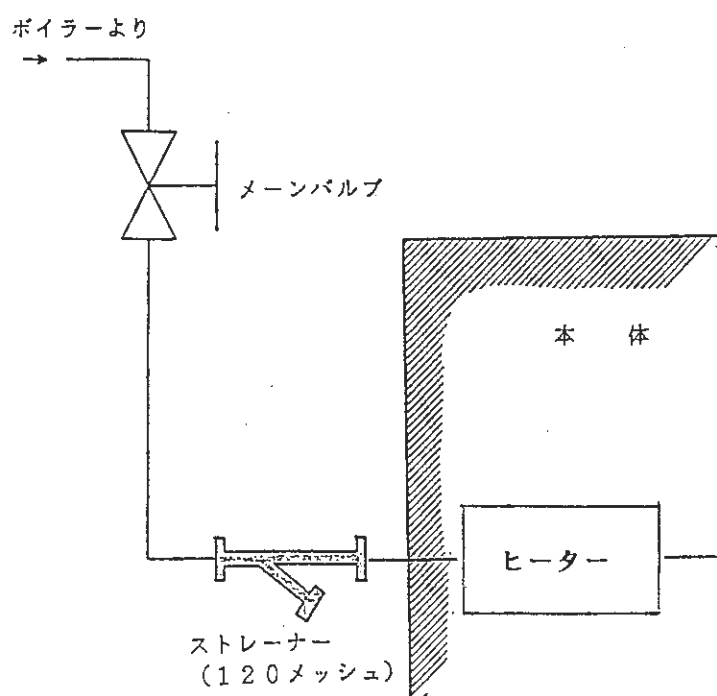
- (9) 冷凍機の制御信号線は、付属のコードを機械背面下部のコネクターに接続し、冷凍機端子台 1, 2, に接続して下さい。

（端子台 1 ————— 線番 T1）

（端子台 2 ————— 線番 32）

3-5 スチーム配管工事について

(1) スチーム配管工事



(2) スチーム配管工事とメインバルブの操作について

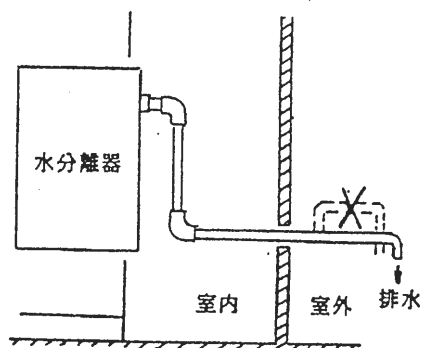
- ◆メインバルブは電磁弁より1メートル以内に取り付けて下さい。
- ◆ストレーナーは付属の120メッシュを図のように取り付けて下さい。
- ◆メインバルブは必ず全開して操作して下さい。
- ◆ストレーナーは1ヶ月に1度点検掃除してください。

(3) 蒸気バルブの取り付けと取扱いについて。

- ◆配管施工時、付属バルブを機械の近くの操作しやすい場所にかならず取り付けてください。
- ◆作業開始時バルブを開くときは、急激に開かないで徐々に開いてください。
急激に開くと蒸気圧によるハンマー現象でヒーターのパンクの原因になります。
- ◆作業終了後はバルブをかならず締めてください。

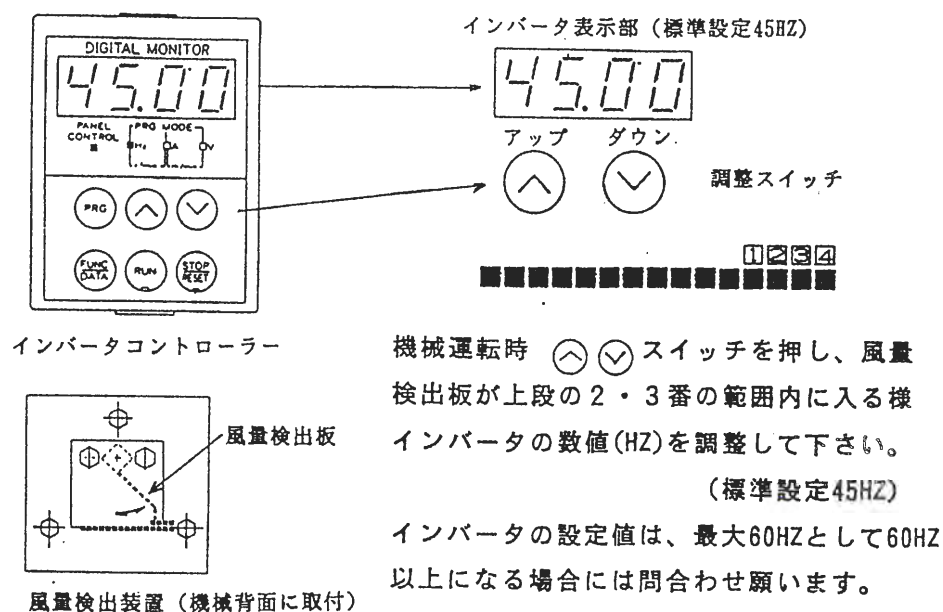
3-6 水分離器排水配管工事

回収乾燥工程時に、室内の気温、湿度の状態により多量の水分が溶剤と一緒に回収され、水分離器より排水されますので、水分離器から室外に排水の工事を必ず施工して下さい。



3-7 排気ダクト工事

- (1) 排気ダクトの長さは、横引き 3 m 縦引き 5 m 以内として下さい。
- (2) ダクトの長さ（抵抗）により排気の風量が変わりますので、風量検出装置の指定風量範囲内に入るようにインバータコントローラーを設定して下さい。



- (3) ダクト外径に断熱材を巻いて下さい。工程中の排気の温度が低温のため、ダクトが結露しますので、必ず断熱材工事を施工して下さい。

3-8 冷凍機据付について

(1) 冷凍機について

東芝全密閉式屋外設置形冷凍機 (TAH300JA-S) が別置きされますので、現地配管工事が必要となります。

冷凍機には、工場出荷時フロンガスR-22を 3.5kg封入済みですが、配管が長い(7m以上)場合はフロンガスの補充が必要です。又、専用工具が必要となります、工場及び各支店に揃えてあります。

ガス洩れがあると、自然に大気中に放出されてしまい機能を果たさなくなります。工場出荷時には、十分テストを行ない確認しておりますが、製品・部品の取扱には十分注意して下さい。

{冷凍機を運転し、(本機と連動) 冷凍機内部のサイドグラスに泡が生じていたらフロンガスR-22の補充を必要とします。}

(2) 工事手順

- ① 冷媒管接続、9.5φ・15.9φ (9.5φ側裸銅管でも可)
- ② 9.5φ冷媒管途中にドライヤー取付け、ドライヤーは冷凍機内に梱包。
- ③ 乾燥機側、パッキレスバルブを開き、真空引き。
- ④ 冷凍機側、パッキドバルブを開き、冷媒回路開通。
- ⑤ 乾燥機背面下部電源ボックス、R・S・Tと冷凍機端子板R・S・Tを接続
3.5mm²×3C 又は 2.0mm²×3C (現地手配)
- ⑥ 乾燥機に、付属の制御線を機械背面下部のコネクターに接続し、冷凍機端子板の1及び2に接続。
- ⑦ 冷凍機を運転し(乾燥機と連動) 冷凍機内部のサイトグラスに、泡が生じていたら、フロンガスR-22を補充。(R-22…冷凍機に 3.5kg封入済み)
- ⑧ 低圧圧力は、3.5kg/cm²～4kg/cm²が正常です。－5℃～0℃蒸発、膨脹弁は調整済みですが、現地調整が必要な時は、工具を付属しています。

(3) 保守点検

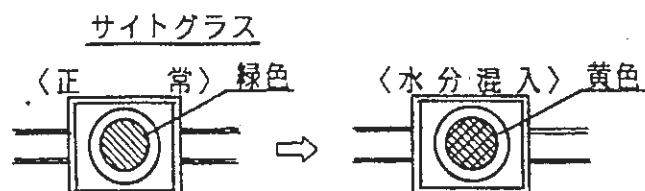
- ① 圧力スイッチ、サーモスイッチ、タイマー等の安全装置及び制御装置の動作確認を1ヶ月に1回して下さい。
- ② 冷凍機の寿命を長くするため、空冷コンデンサーの汚れを定期的に掃除し、清浄な状態でご使用下さい。(冷凍機フィルターの掃除は1週間に1回して下さい。)
- ③ コンプレッサ温度、圧力等は、使用条件の範囲内か、時々確認して下さい。

各部の温度(℃)

吐出管	100以下
吸込管	10～20
コンプレッサケース	30～70

④ 冷媒中の水分の有無の確認

(冷凍機配管中のサイトグラスにて確認して下さい。)



● 冷凍機点検時は、高温部、回転部には絶対に手を触れないで下さい。

4. 作業開始の前に

1. 電気工事はよいか。

- ・ 線の太さ 2.0mmヒューズ 15Aを確認する。
(冷凍機は別のブレーカーよりおとり下さい。)
- ・ 本機は、インバータを使用していますので電源に使用する漏電遮断器はインバータ専用のもので工事を施工して下さい。(感度電流 30~100mA)
- ・ 力率改善用コンデンサは、絶対に取り付けしないで下さい。
(コンデンサを取り付けると、インバータを破壊します。)

2. アースはよいか。

- ・ 接地工事はしてあるか。第3種接地工事確認。

3. 排気ダクトの取付はよいか。

4. 電源の供給はよいか。

- ・ 電源の元のスイッチを入れ表示ランプ点灯確認。

5. 蒸気の供給はよいか。

- ・ 蒸気元バルブを開き圧力計で圧力確認 $4 \sim 6 \text{ kg/cm}^2$

6. エアアの供給はよいか。

- ・ エアアの元バルブを開きエアレギュレーターで圧力確認 5 kg/cm^2

7. 冷凍機ユニットの設置場所は屋外で、周囲温度が40℃以下になる様にして下さい。

8. リントフィルターの点検

- ・ 前パネルを開きリントフィルター確認、ゴミ、ホコリ等掃除。

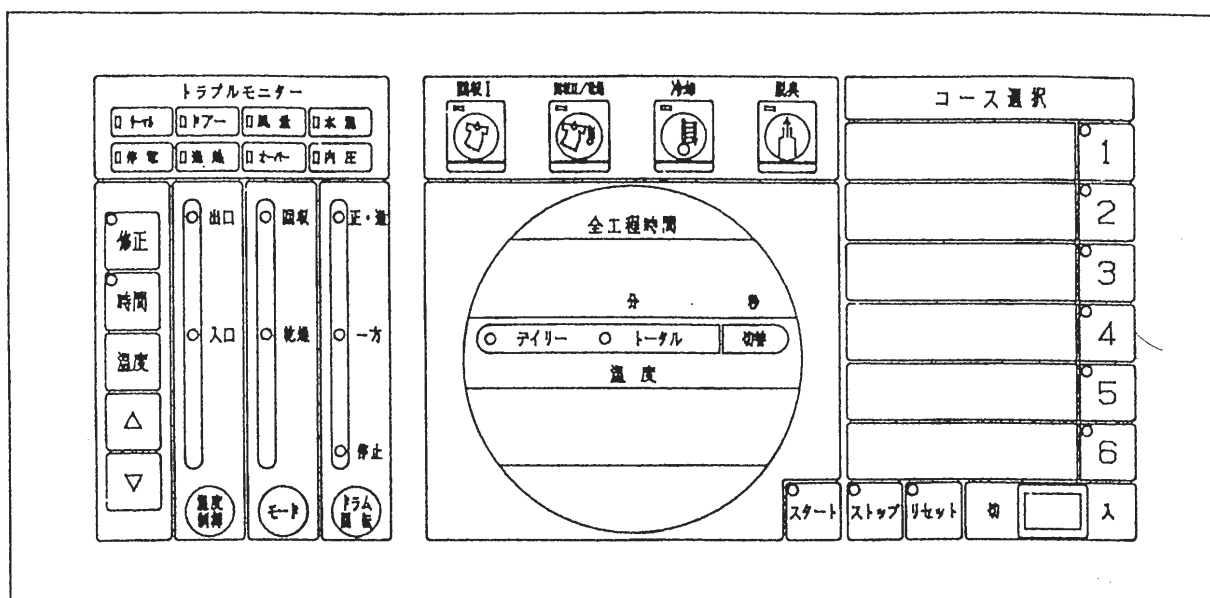
9. ウォーターセパレーター

- ・ 試運転前及びセパレーター掃除後は、5ℓの水を必ず入れて下さい。

5. 取扱上の注意

1. 本機の近くで、絶対に火気を使用しないで下さい。
2. ポケット掃除は必ず行い、ライター、マッチ、金属類等は取除いて下さい。
3. 衣類に付いている金属類は、外すか保護カバーをして下さい。
4. 衣類は、定格負荷量以上に入れないで下さい。
5. 合成溶剤で洗濯した衣類は、絶対に乾燥しないで下さい。
6. 静電気の発生を防ぐため、帯電防止剤を配合した溶剤で洗浄した品物を投入して下さい。
7. 静電気の発生しやすい衣類等は、乾燥機内に静電防止紙等を入れて乾燥を行って下さい。
8. ポリプロピレン系の衣類は、自然発火することがありますので、乾燥しないで下さい。
9. 乾燥した衣類は、速やかにドラム内より取り出して下さい。
10. 運転中は、ドアの開閉はしないで下さい。

6. 運転操作方法



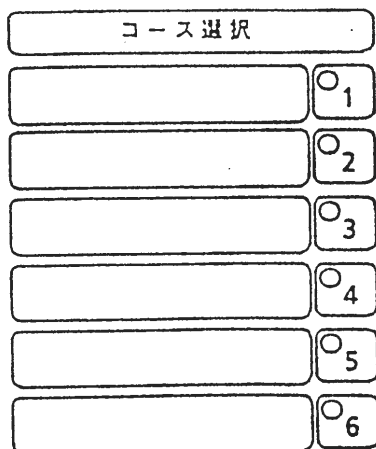
6-1 各スイッチの説明

電源



操作回路へ電気を供給するスイッチで、スイッチ「入」で各表示ランプが点灯します。

コース選択



各コースの選択スイッチで1~6コースを被洗物に合わせてセット出来ます。

スタート



自動、手動運転コースのスタートスイッチで、一時停止(ストップスイッチ)後の再スタートのスイッチでもあります。
スタートスイッチを押すとランプが点灯します。

ストップ



自動、手動運転の一時停止用スイッチです。

リセット



いつでも電源「入」の状態にもどすスイッチで自動運転中は必ずストップスイッチを押し、一時停止にしてからリセットスイッチを押して下さい。

プログラム修正



各コースのプログラムを修正する時は、このスイッチを押してから(ランプが点灯)1コース~6コースの内容を修正すると各コースに修正内容が記憶されます。

時間切替スイッチ



工程時間を修正するスイッチで分セット秒セットの切替スイッチです。

ランプが点灯している状態で秒セット、ランプが消灯状態で分セットが出来ます。

時間(温度)変更スイッチ



各工程時間の変更及び温度設定の変更スイッチです。

増は 、減は スイッチで行って下さい。



温度切替スイッチ

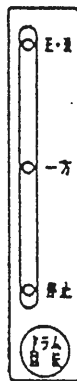


各工程の乾燥温度を修正するスイッチです。

温度の増減は (増)、 (減)スイッチで行って下さい。

6-2 変更スイッチ

ドラム回転切替スイッチ



ドラムの正逆転、一方回転停止を切替えるスイッチで、正逆、一方回転停止を任意に選択することが出来ます。

(正・逆・・・・・・・・・・15秒運転, 5秒休止
一 方・・・・・・・・・・正転方向の連続運転
停 止・・・・・・・・・・ドラム停止状態)

回収、乾燥切替スイッチ

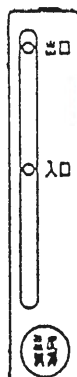


脱臭回収乾燥とオープン乾燥を切替えるスイッチです。

脱臭回収乾燥を行う時は、回収側に、又オープン乾燥を行う時は、乾燥側にスイッチをセットして下さい。

(乾燥にセットしますと「回収Ⅰ」「冷却」の工程は消灯します。)

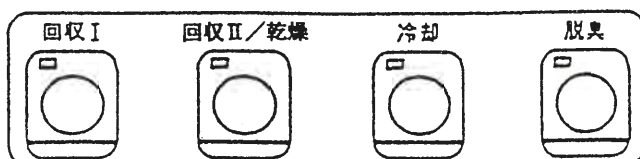
温度制御切替スイッチ



温度制御の切替スイッチで「入口」「出口」の切替が出来ます。

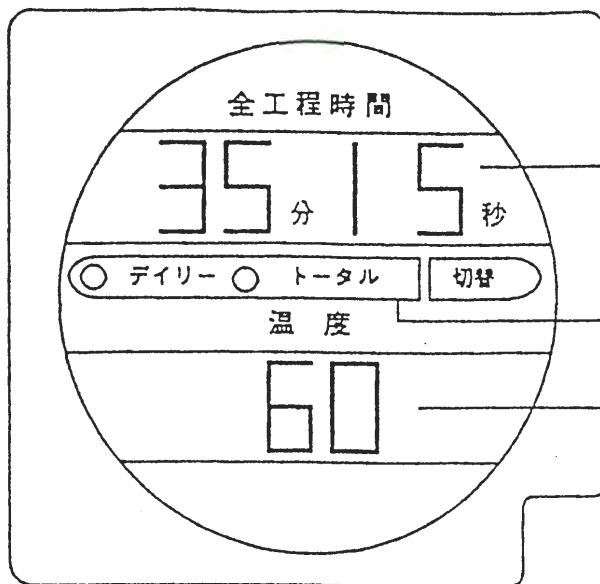
(入口制御の温度設定・・・・・・・・40℃ ～ 100℃
出口制御の温度設定・・・・・・・・30℃ ～ 60℃)

6-3 工程セット



1. 乾燥から脱臭までの工程セットに使用するスイッチ（キー）です。
2. プログラム変更時は工程セットの各スイッチ（キー）を押すと工程表示ランプがフラッシングします。
3. 工程セットを間違えて入れた時は、削除したい工程の工程セットキーをもう一度押すことにより削除出来ます。

6-4 表示部



全工程時間

各コースの全工程時間と残り時間を表示します。
又、各工程キーを押すことにより各工程の時間も表示します。

切替スイッチによりデイリー回数、トータル回数も表示します。

回数

全工程時間の表示をデイリー、トータルで表します。

乾燥温度

設定乾燥温度とドラム内温度を表示します。

トータル、デイリー、切替

切替

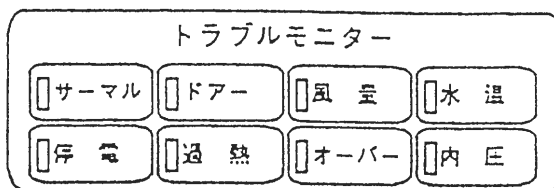
スイッチを押すと全工程時間からデイリー回数、トータル回数と切替ります。

・デイリー・・・1日の乾燥回数を表示します。

デイリー回数は **修正** , **リセット** で解除出来ます。

・トータル・・・機械稼働時からのトータルの乾燥回数をこのスイッチを押すと表示します。

6-5 トラブルモニター

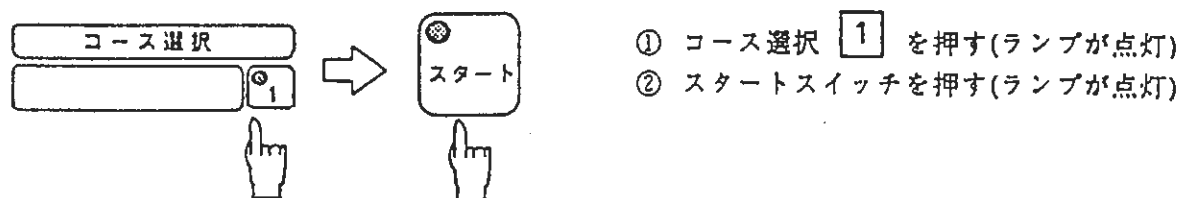


機械運転中に不具合があった場合、ブザーが鳴り
トラブルモニターが点滅します。

LED 名称	内 容	表示方法		機 械 の 動 き	解 除 方 法		
		LED	ブザー		ブザー	継続	終了
サーマル	OL-1 サーマルが作動した時	点 滅	断続音	機械停止状態	ストップ SW (ON)	——	リセット SW (ON)
	インバータの内部サーマルが作動した時	点 滅	断続音	機械停止状態	ストップ SW (ON)	——	リセット SW (ON)
ドア	ドア開の時	点 滅	——	一次停止状態	——	ドア閉 スタート SW (ON)	リセット SW (ON)
	ドアでスタートSW (ON) の時	点 滅	断続音	機械停止状態	ドア閉 ストップ SW (ON)	ドア閉 スタート SW (ON)	——
風 量	排風量減少の時	点 滅	断続音	機械停止状態	ストップ SW (ON)	——	リセット SW (ON)
停 電	運転中停電が起き復電した時	点 滅	断続音	機械停止状態	ストップ SW (ON)	——	リセット SW (ON)
過 熱	温度が設定温度より20℃以上 オーバーした時	点 滅	断続音	機械停止状態	ストップ SW (ON)	——	リセット SW (ON)
水 温	冷凍機が過熱した時 25℃ (標準)	点 滅	断続音	機械停止状態	ストップ SW (ON)	——	リセット SW (ON)
オーバー フロー	回収工程を5回行った場合	点 滅	断続音	機械停止状態	ストップ SW (ON)	——	リセット SW (ON)
内 圧	内圧SWが作動した時	点 滅	断続音	ドラム回転停止状態	ストップ SW (ON)	——	リセット SW (ON)

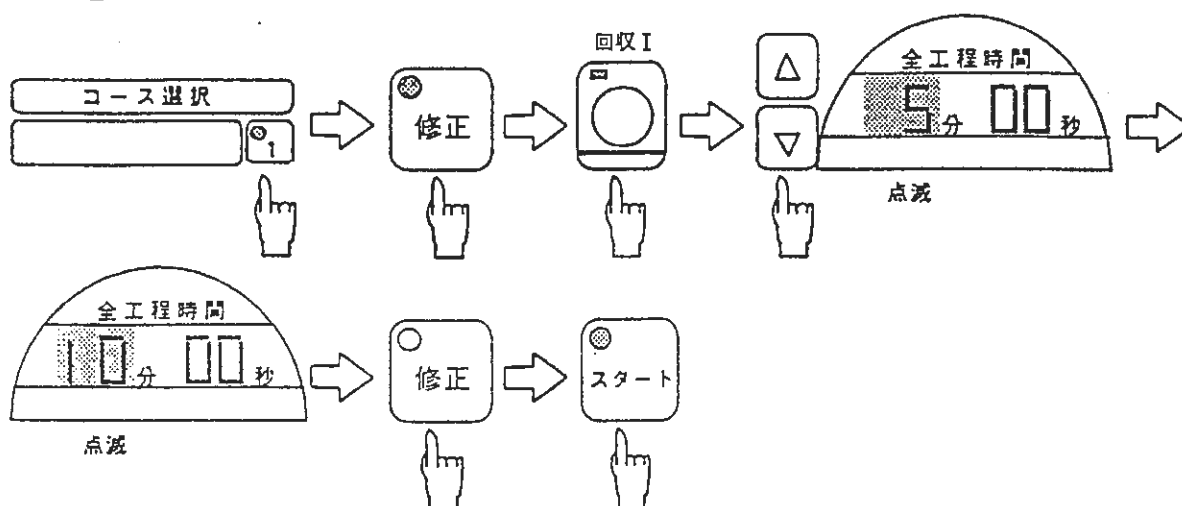
7. 自動運転の操作例

7-1 標準コースで乾燥(コース 1)



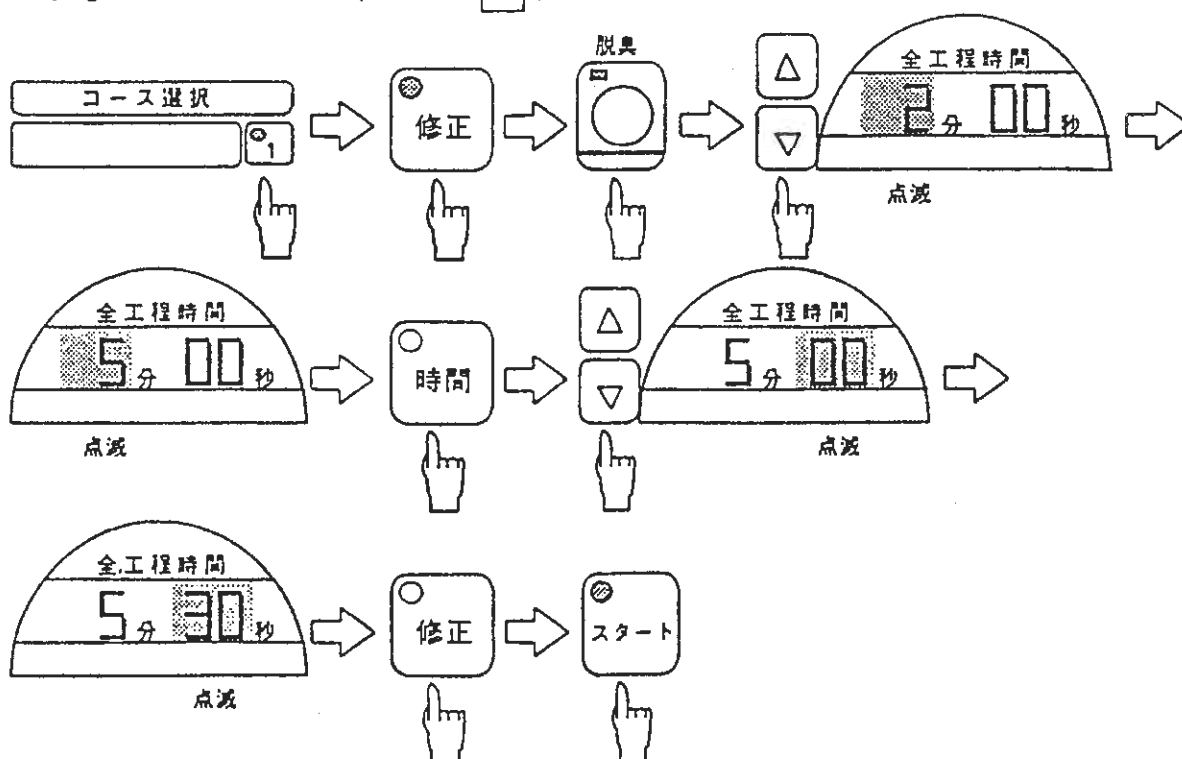
※ 他のコースも同様の操作

7-2 回収Iの時間変更(コース 1) 標準 5分→10分



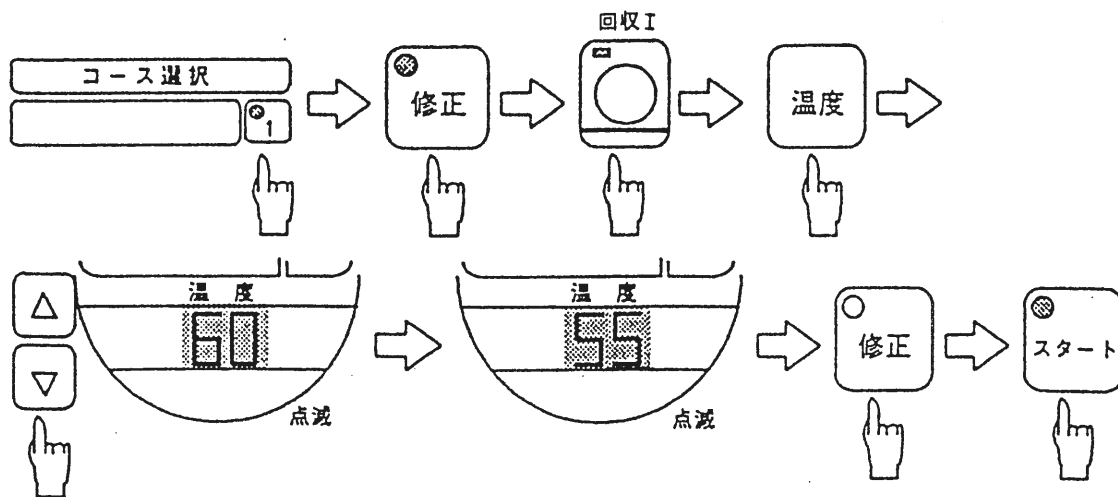
※ 他のコースも同様の操作

7-3 脱臭時間の変更(コース 1) 標準2分→5分30秒



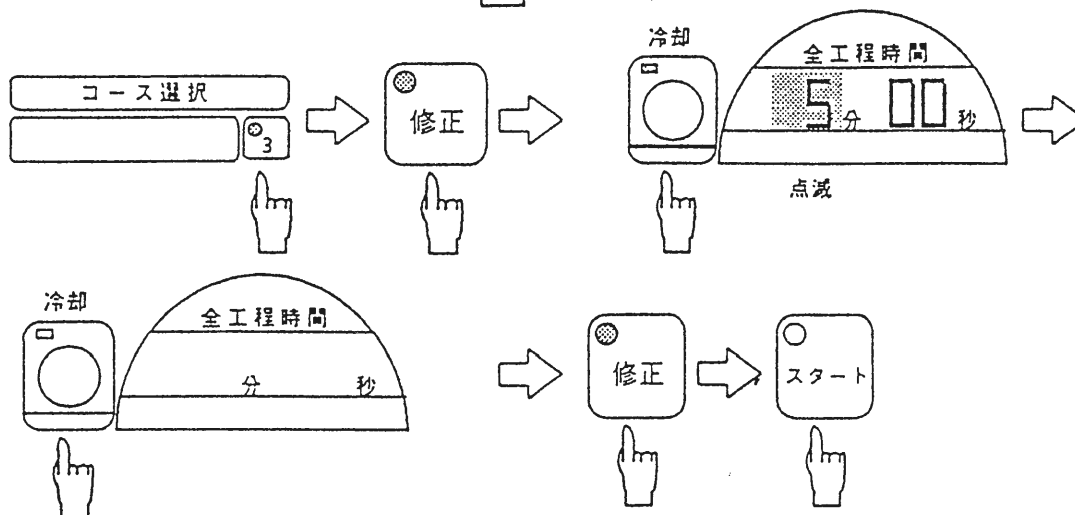
※ 他のコースも同様の操作

7-4 回収I温度の変更(コース 1) 標準入口温度60℃→55℃に



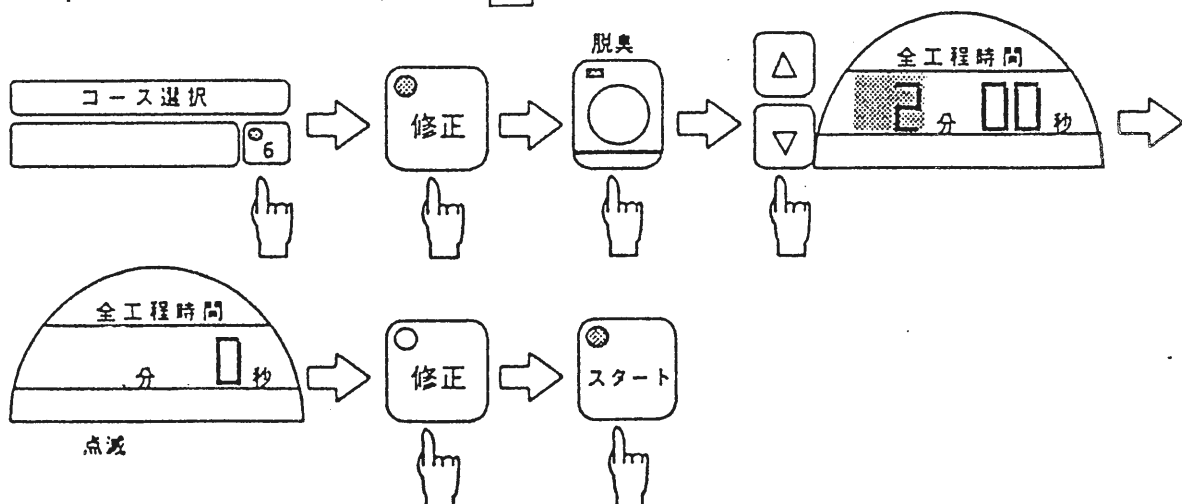
※ 他のコースも同様の操作

7-5 冷却工程の削除(コース 3)



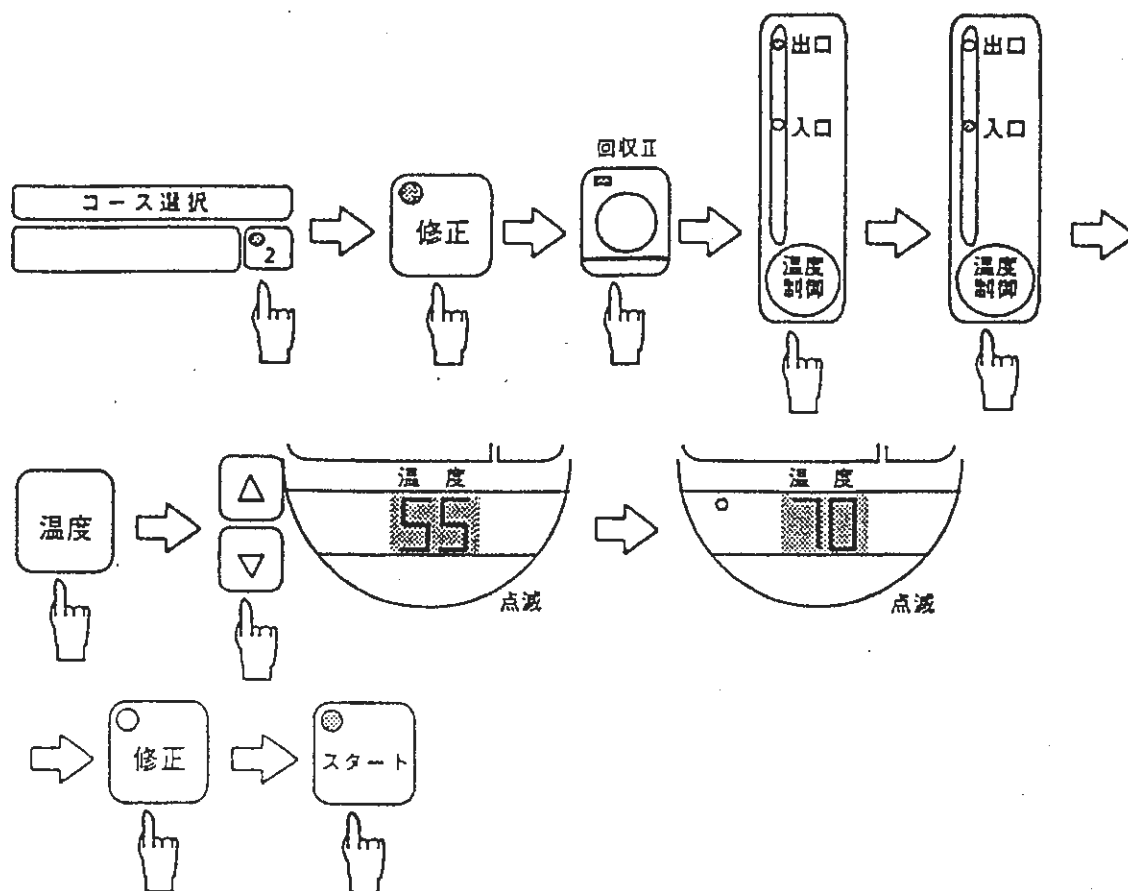
※ 他のコースも同様の操作

7-6 脱臭工程の削除(コース 6) 2分



※ 他のコースも同様の操作

7-7 温度制御出口55℃→入口70℃に変更（コース 2）

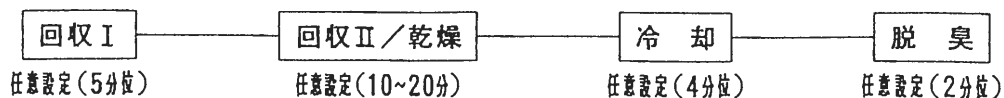


※ 他のコースも同様の操作

8. 脱臭回収乾燥とオープン乾燥

脱臭回収乾燥

タイムチャート



※ インバータ設定 : 45Hz~60Hz設定 (ダクト長に合わせて、据付置調整)

オープン乾燥

タイムチャート



※ インバータ設定 : 60Hz固定

〔注意〕

水洗物をオープン乾燥する時は、本器内に水分が残らないよう十分に注意し、完全乾燥を行って下さい。又、リントフィルターは作業終了後取り外し、きれいに掃除し、乾燥を十分にしてから使用して下さい。

出来れば、ドライ用とランドリー用とに分けて使用して下さい。

9. 標準プログラムの設定内容

※ オープン乾燥

コース 工 程	1	2	3	4	※ 5	※ 6
回収Ⅰ	5 分 (入口)60℃	5 分 (入口)55℃	10 分 (入口)55℃	5 分 (入口)50℃	—	—
回収Ⅱ/乾燥	15 分 (出口)60℃	18 分 (出口)55℃	10 分 (出口)55℃	10 分 (入口)60℃	20 分 (入口)70℃	20 分 (出口)60℃
冷 却	4 分	4 分	4 分	3 分	—	—
脱 臭	2 分	2 分	2 分	2 分	2 分	2 分
合 計 時 間	26 分	29 分	26 分	20 分	22 分	22 分

◎ 回収Ⅰ工程は入口温度に設定して下さい。(入口温度設定40~ 100℃)

回収Ⅱ工程は出口温度に設定して下さい。(出口温度設定30~60℃)

10. 点検・整備

10-1 日常点検

1. 機械各部の動きは正常ですか。

電磁弁、ダンパー等が正常に動かないと乾燥、回収不良となります。

2. 冷凍機の点検

外気温度が40℃以上を長時間越えて運転させた時には、冷凍機の安全装置が作動して停止します。原因を取り除きリセットして下さい。

運転中の標準圧力

高圧側 12～15kg/cm²

低圧側 3.5～4 kg/cm²

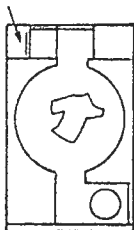
3. コンプレッサーのエア圧力は正常ですか。(5kg/cm²)

エアの圧力が低下しますと、ダンパーが正常に作動しなくなり乾燥、回収能力が低下しますので、十分注意して下さい。

4. リントフィルターは、5回運転毎に必ず掃除をして下さい。

リントフィルターが目づまりしますと、風量が低下し、乾燥、回収効率が悪くなり内胴内に気化された溶剤が溜り危険です。

5. ヒーターストレーナー



ヒーター入口のストレーナーにホコリが溜りますとヒーターの能力が低下し、乾燥効果を低下させます。

ヒーターストレーナーは毎週掃除して下さい。

6. 運転中に各部からの溶剤の洩れはありませんか。

溶剤が洩れてしまうと作業場に溶剤が流れ出し危険ですし、回収溶剤のムダにもなります。

7. 乾燥温度設定が正しくセットされていますか。

被洗物に合った正しい温度にセットされていないと、乾燥不良や衣類の縮み事故につながります。特にアクリル等の化学繊維の乾燥には十分注意して下さい。

8. セパレーターに回収された溶剤が正常に出てきていますか。

セパレーター入口にゴミ等がつまりますと、クーラーで液化された溶剤がクーラーユニットの中に溜ってしまい危険です。回収された溶剤がセパレーターに正常に出てきているか点検して下さい。

セパレーターの掃除は、1ヶ月に一度行って下さい。(バルブを開き、水、溶剤を抜き取って下さい。)

◎ 掃除後は、セパレーターに 5ℓ の水を入れて下さい。

10-2 1ヶ月毎点検

1. クーラーのフィンの掃除をして下さい。

クーラーのフィンにホコリ等がつまりますと、冷却効果が下がり、回収能力が低下しますのでユニット下部の掃除口のフタを外して点検掃除をして下さい。

2. 蒸気ストレーナーの掃除をして下さい。

蒸気用ストレーナーにゴミがつまりますと、乾燥温度が上がらなくなり、回収能力が低下しますので点検して下さい。

3. サーモスタット等の検知部の掃除をして下さい。

サーモスタット等の検知部にゴミ等が付きますと、温度不良の原因になりますので点検して下さい。

4. 排気ダクトの掃除をして下さい。

排気ダクトがつまりますと排気不良となり、機内に気化された溶剤が溜り危険ですので点検して下さい。